

## 学童保育の利用に関する母親向けの実態調査 学童保育で一番身につけて欲しい能力は「集団生活への順応力」

学童保育指導員の資格事業等を通じて、子育てがしやすい環境の整備や保育人材の育成、学童保育業界全体の発展を目指す一般社団法人キッズコーチ協会(東京都世田谷区、代表理事:島根太郎/以下、当協会)は、学童保育の利用実態や、保護者が学童保育に求めるサービスを明らかにすることを目的に、首都圏、中京圏、近畿圏に在住し、現在、小学生の子どもを学童保育に通わせている女性(母親)を対象に、学童保育に関する保護者目線の実態調査を行いました。

### 【調査結果のポイント】

#### ■ 学童保育の利用実態 (P.3~)

- 利用している学童保育の運営主体は公設(「公立公営」(54.6%)、「公立民営」(14.6%)の合計)が69.2%
- 学童保育を利用している母親の59.5%が「週に5回(日)以上」利用
- 学童保育を利用する理由は「放課後に家庭で子どもの面倒をみられない」が84.5%

#### ■ 学童保育に対する期待 (P.5~)

- 学童保育で過ごす時間を通じて一番身につけて欲しい能力は、「集団生活、集団行動への順応力」が66.3%
  - ・ 中京・近畿圏は“社会性”を、首都圏は“コミュニケーション力”を重視する傾向
- 学童保育利用者の57.2%が小学校高学年(4~6年生)までの利用を希望
  - ・ 高学年までの利用希望は、中京圏・近畿圏の方が首都圏より10.3%高い
- 学童保育を利用に際して期待したことは、「学校から近い」(87.6%)、「行き帰りが安全」(84.4%)
  - ・ 次いで「指導員の人数が充実」(77.5%)、「スキルのある指導員がいる」(75.0%)

#### ■ 学童保育に対する評価 (P.8~)

- 現状の学童保育で満足度が高いのは、「学校や家から近い」(80.0%)、「親の負担がない」(70.1%)
  - ・ 一方、満足度が低かったのは「勉強に集中して取り組める」(22.4%)
  - ・ 家計形態別では、総じて専業主婦世帯より共稼ぎ世帯の満足度が低い
- 満足度が期待度を下回ったのは「スキルのある指導員がいる」(-19.7%)、「指導員の人数の充実」(-17.6%)

#### ■ 今後の学童保育に向けて (P.9~)

- 学童保育の機能で期待が高いのは「しつけにかかわる習慣づけ」(38.8%)、「体を動かす機会」(38.6%)
  - ・ 中京・近畿圏は「しつけにかかわる習慣づけ」(52.4%)、「体を動かす機会」(44.7%)を重視
  - ・ 一方、首都圏は「子どもが楽しめるイベント」(36.9%)、「おやつ提供」(29.8%)を希望
  - ・ 家計形態別では、共稼ぎ世帯は専業主婦世帯より「おやつ提供」、「病時・病後保育」を期待
- 指導員には「子どもが信頼できる人柄」(51.7%)、「事故などを未然に防ぐ運営管理能力」(47.8%)を期待

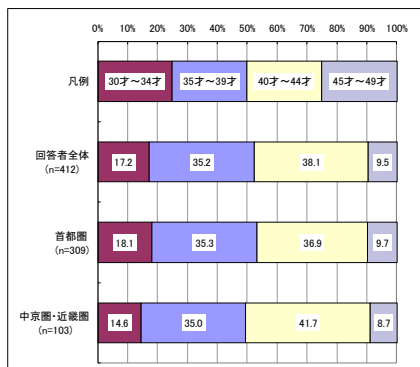
#### ≪報道関係の方のお問い合わせ先≫

一般社団法人キッズコーチ協会(株式会社キッズベースキャンプ内)  
広報担当:三沢 敦子  
TEL: 03-5426-3123 / FAX: 03-3439-2266 / E-mail: [pr@kidsbasecamp.com](mailto:pr@kidsbasecamp.com)

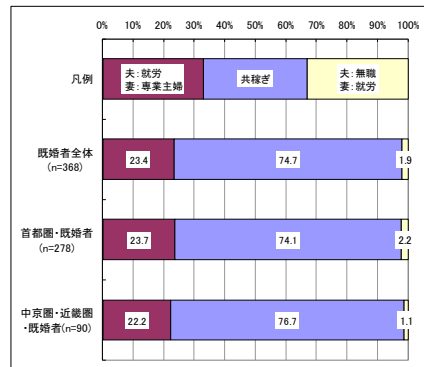
## 【調査概要】

- 調査方法：インターネット調査(回答者の抽出や調査の実施は㈱マクロミルに委託)  
 調査地域：首都圏(東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県/東京駅を中心とする半径40km圏)、  
 中京圏・近畿圏(名古屋駅を中心とする半径15km圏・大阪駅を中心とする半径30km圏)  
 調査対象：30歳～49歳で、現在学童保育を利用している母親  
 サンプル数：合計412サンプル(首都圏309サンプル、中京・大阪圏103サンプル)  
 調査時期：2013年7月下旬から8月上旬  
 回答者属性：

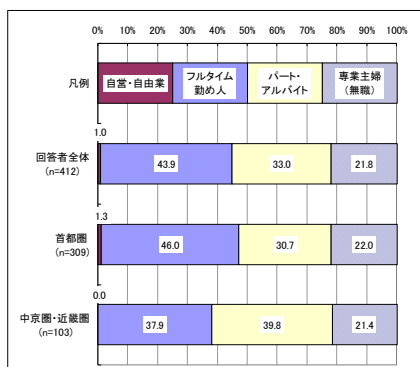
### <年齢>



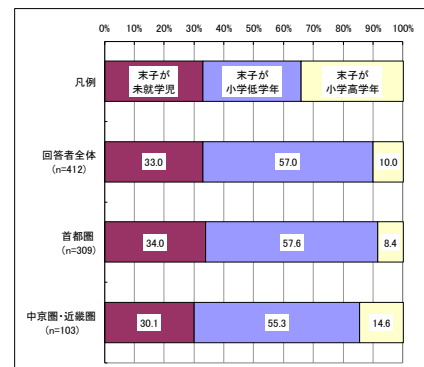
### <既婚者における収入形態>



### <就労形態>



### <子どもの学齢>



備考：各調査項目については「地域別」、「家計形態別」、「母親の就労形態別」、「学童保育の設立主体別」、「利用料金別」に集計を行っておりますが、本リリースではその中から特に違いがみられたものを抜粋して記載しています。  
 さらに詳細な調査結果をご希望の場合は、当協会までお問い合わせ下さい。

## 【調査の実施背景】

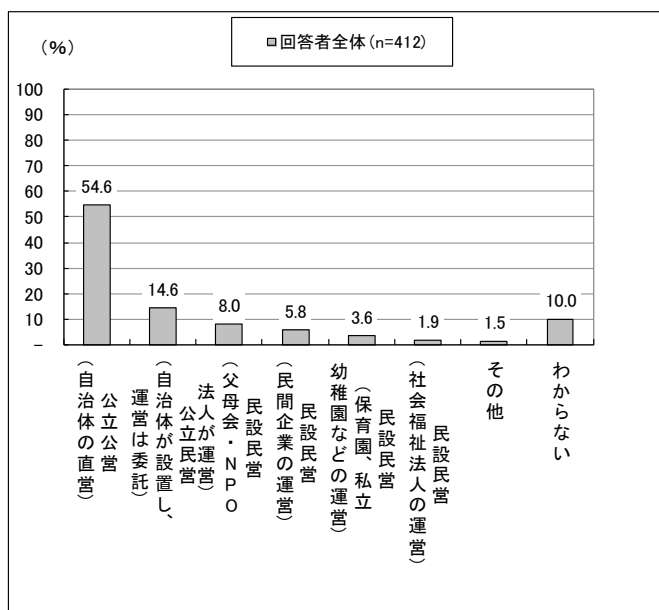
女性の社会進出が進み、共働きの世帯が増加する中、放課後に小学生の子どもを預かる学童保育に関しては、今後、質・量の両面において、社会全体から一層の充実が求められていくと考えられます。今回の調査は、このような社会的背景を受け、利用者である母親の視点から、学童保育の利用実態や利用者としての評価・期待を明らかにし、今後、学童保育業界全体が利用者の目線に立って発展していくための一助とすることを目的に実施いたしました。

### <キッズコーチ協会について>

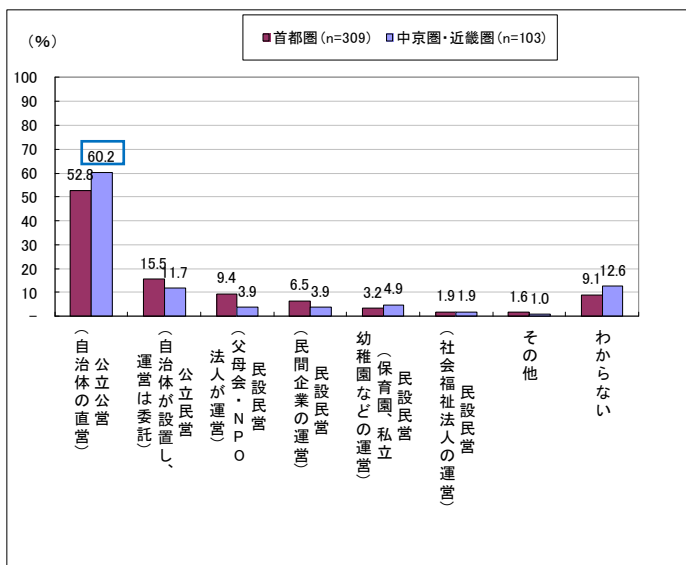
- 法人名：一般社団法人キッズコーチ協会
- 所在地：東京都世田谷区桜新町 2-10-12 ガレリア M202
- 設立：2012年
- 代表理事：島根 太郎 (株式会社キッズベースキャンプ 代表取締役)
- 目的：『認定キッズコーチ』や、『キッズコーチ検定』を通して、子育てがしやすい環境の整備や、保育人材の確保及び質の向上、学童保育業界全体の発展に寄与する
- 事業内容：保育資格制度『認定キッズコーチ』の運営  
子どもと関わるための基礎力の習得を目的とした検定『キッズコーチ検定』の運営

## 【学童保育の利用実態】

### Q1.あなたが現在利用している学童保育の運営主体を教えてください。(回答は一つだけ)



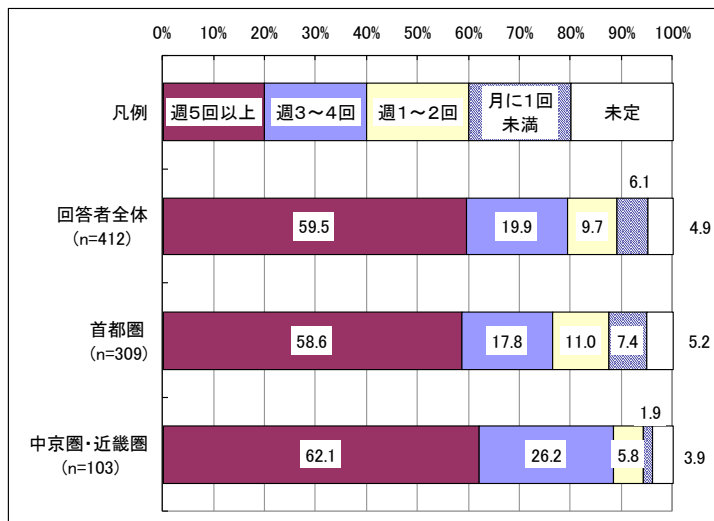
### 【地域別】



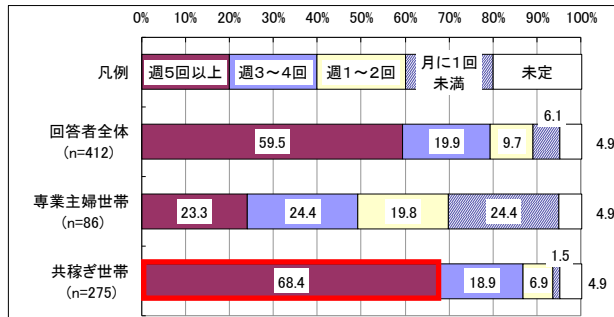
- ✓ 学童保育の運営主体をみると、回答者の 54.6%が「公立公営」と答えています。これに「公立民営」(14.6%)を加えた「公設」の学童保育を利用している人は、回答者の約 7 割に達します。
- ✓ 地域別にみると、「公立公営」の学童保育は、中京・近畿圏の人の方が首都圏よりも 7.4%利用率が高くなっています。

### Q2.あなたのお子様は、学童保育をどれくらいの頻度で利用していますか。(回答は一つだけ)

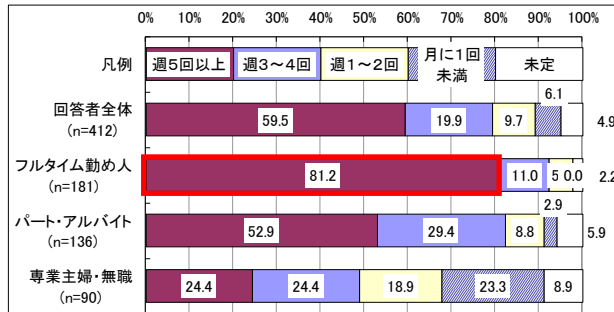
#### 【全体・地域別】



#### 【家計形態別】

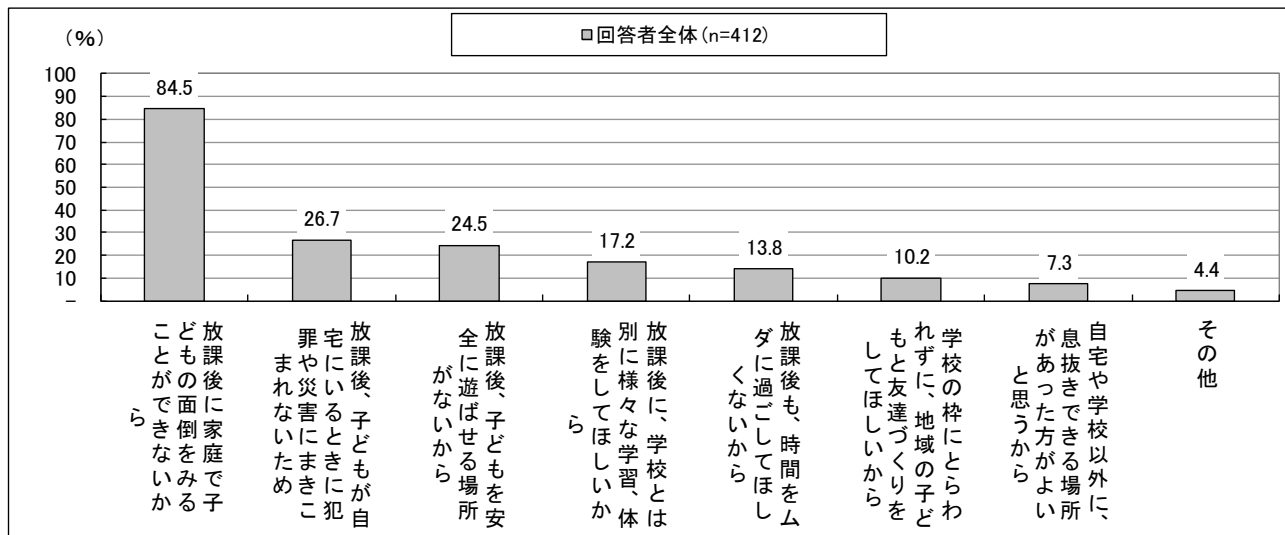


#### 【母親の就労形態別】



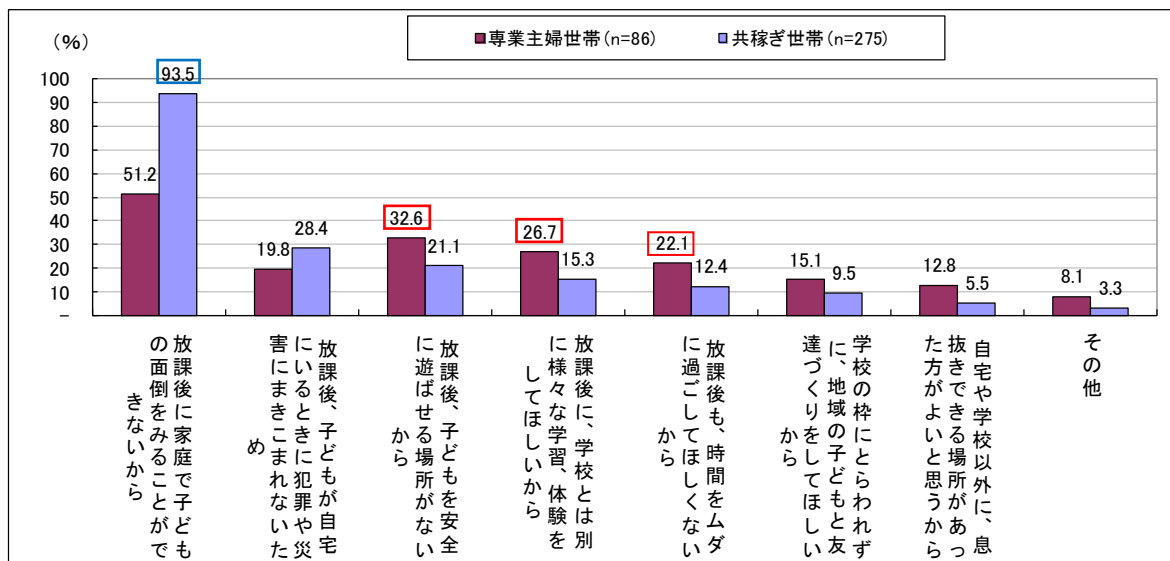
- ✓ 学童保育の利用頻度をみると、59.5%の人が学童保育を「週5回(日)」以上利用しています。
- ✓ 家計形態別では、共稼ぎ世帯の68.4%が「週に5回(日)」以上学童保育を利用しており、専業主婦世帯よりも顕著に高くなっています。
- ✓ 母親の就業形態別では、フルタイム勤め人の81.2%が「週に5回(日)」以上となっています。また、パート・アルバイトでは、52.9%が「週に5回(日)」以上、29.4%が「週に3回~4回(日)」となっています。

**Q3.あなたは、どのような理由で学童保育を利用していますか。(回答はいくつでも)**



- ✓ 学童保育を利用する理由(3 つまで選択)では、84.5%の人が「放課後に家庭で子どもの面倒をみるできないから」を挙げています。次いで「放課後、子どもが自宅にいて犯罪や災害にまきこまれないため」(26.7%)、「放課後、子どもを安全に遊ばせる場所がないから」(24.5%)が挙げられています。

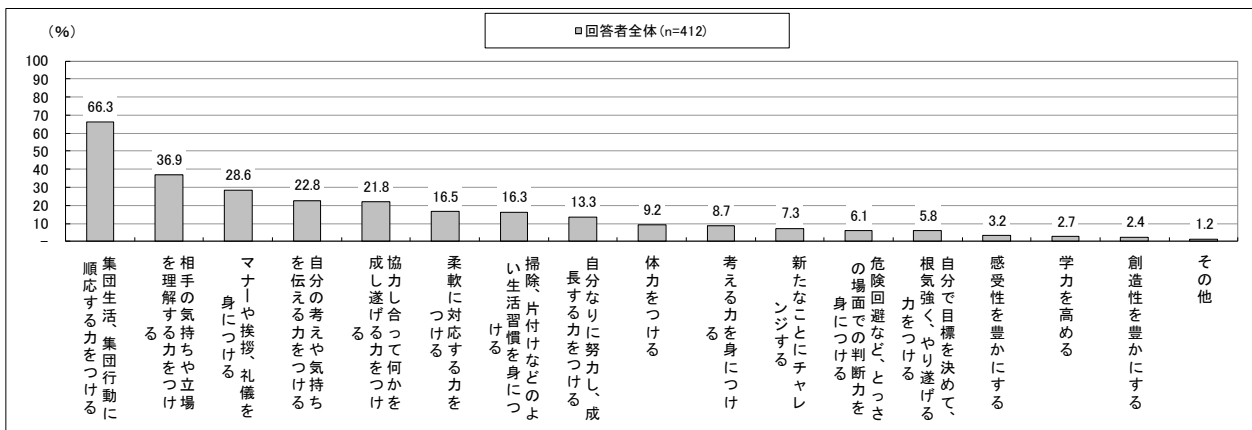
**【家計形態別】**



- ✓ 学童保育を利用する理由(3 つまで選択)を家計形態別にみると、共稼ぎ世帯では「放課後に家庭で子どもの面倒をみるできないから」が 93.5%でした。一方、専業主婦世帯は 51.2%にとどまり、「子どもを安全に遊ばせる場所がない」(32.6%)、「学校とは別に様々な学習、体験をして欲しい」(26.7%)、「放課後も時間を無駄に過ごして欲しくない」(22.1%)といった理由を共稼ぎ世帯よりも多く挙げています。

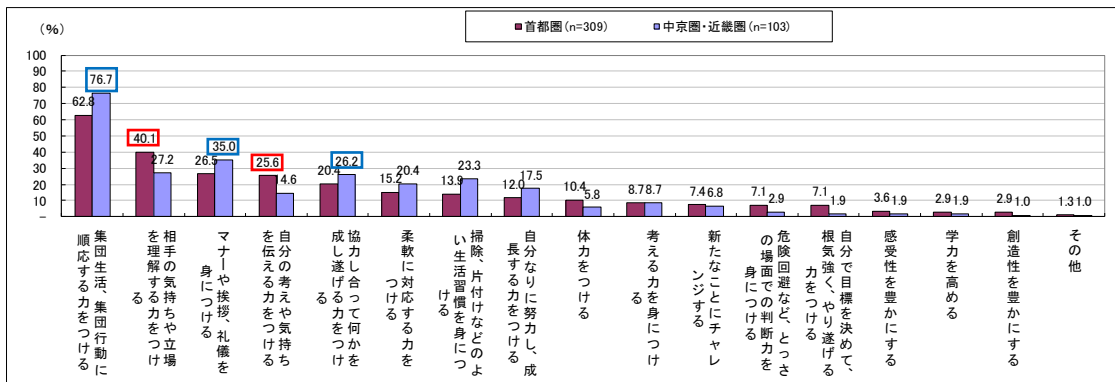
## 【学童保育に対する期待】

Q4.あなたが学童保育で過ごす時間を通じて、お子様に身につけて欲しい能力はなんですか。(回答は3つまで)



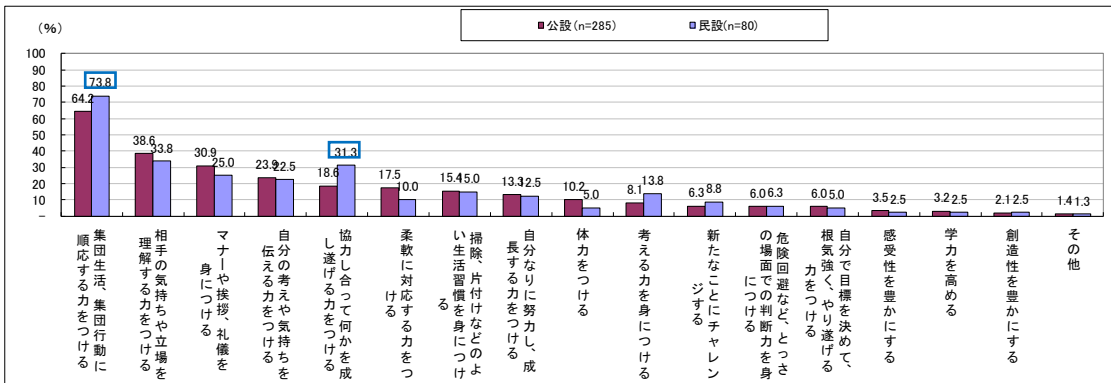
- 学童保育で子どもに身につけて欲しい能力(3つまで選択)では、「集団生活・集団行動に順応する力をつける」(66.3%)が最も多く挙げられています。次いで「相手の気持ちや立場を理解する力を身につける」(36.9%)、「マナーや挨拶・礼儀を身につける」(28.6%)の習得と続きます。

### 【地域別】



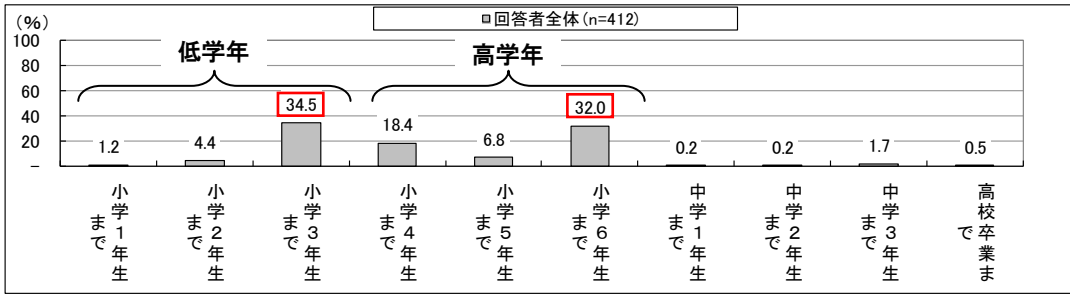
- 首都圏と中京・近畿圏を比較すると、「集団生活、集団行動に順応する力をつける」で 13.9%、「マナーや挨拶、礼儀を身につける」で 8.5%、「協力し合って何かを成し遂げる力」で 5.8%の差がでるなど、中京・近畿圏の人は“社会性”に関わる項目を望む傾向にあります。反対に、首都圏の人が中京・近畿圏を上回った項目では、「相手の気持ちや立場を理解する力をつける」が 12.9%、「自分の考えや気持ちを伝える力をつける」が 11.0%など、“コミュニケーション力”に関わるものが挙げられます。

### 【設立主体別】



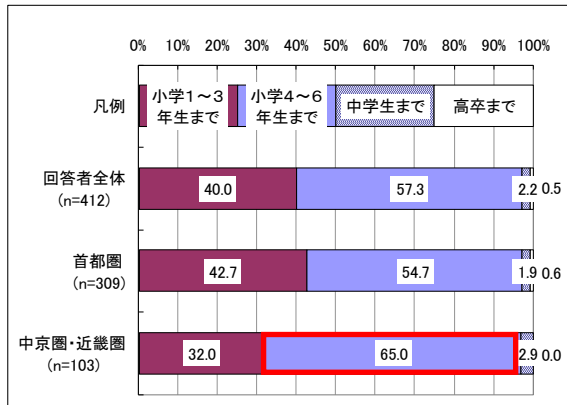
- 設立主体別では、民設の利用者の方が公設の利用者よりも、「集団生活、集団行動に順応する力を身につける」で 9.6%、「協力し合って何かを成し遂げる力をつける」で 12.7%上回り、民設利用者は子どもの“社会性”を育むことを望んでいるようです。

**Q5.あなたは、お子様が何年生になるまで、学童保育を利用したいとお考えですか。(回答は一つだけ)**

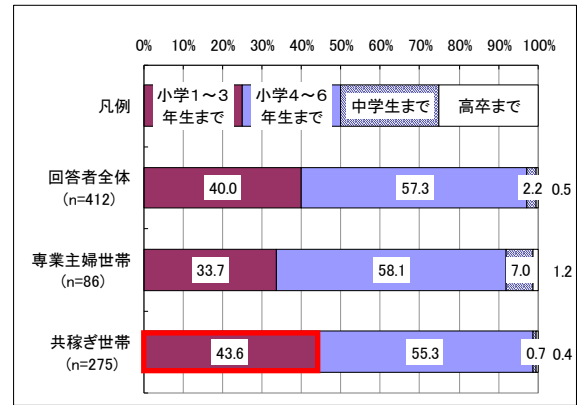


- ✓ 学童保育の利用期限(学齢)については、「小学3年生まで」(34.5%)と「小学6年生まで」(32.0%)の割合がほぼ拮抗しています。3年単位でまとめると、「小学校低学年まで」が40.1%、「小学校高学年まで」が57.2%で、高学年までの利用を望む人が多数派でした。

**【地域別】**

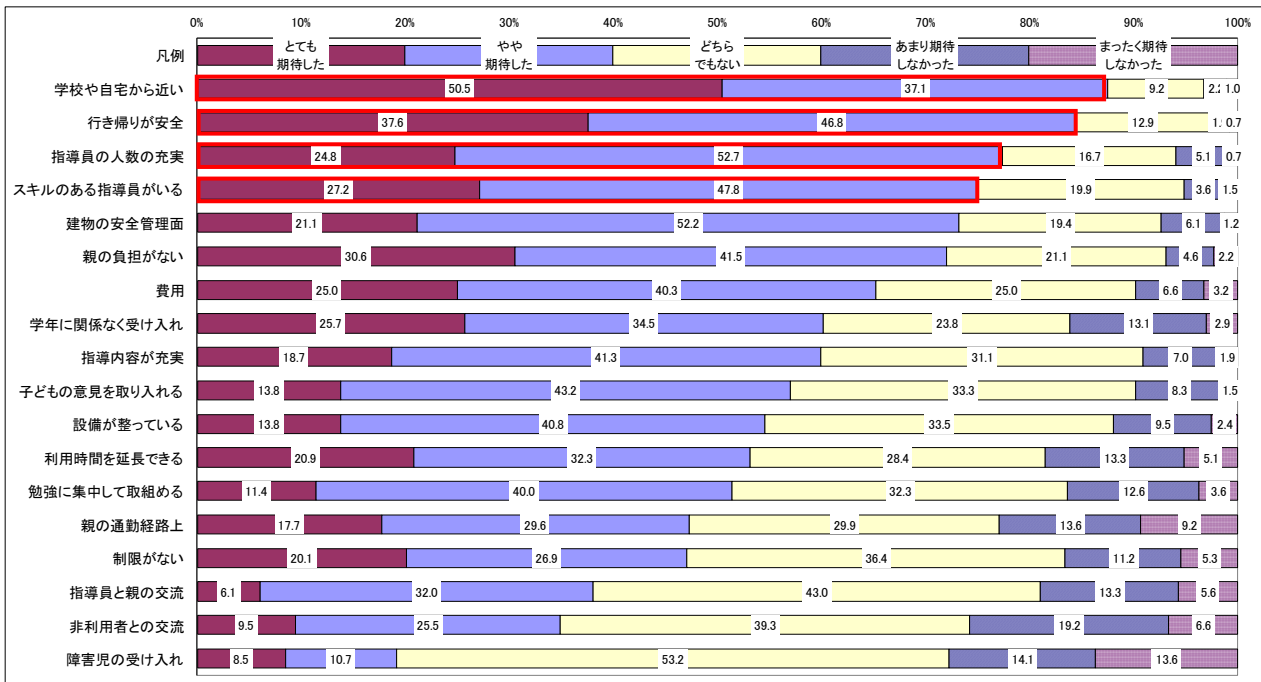


**【家計形態別】**



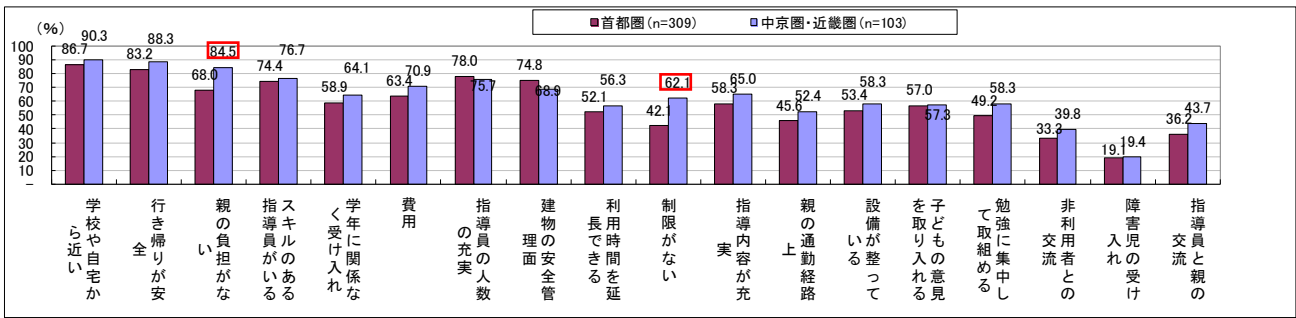
- ✓ 地域別では、小学校高学年まで学童保育を利用したいという人の割合は、首都圏では 54.7%なのに対し、中京・近畿圏では 65.0%で、10.3%の差がつかました。
- ✓ 家計形態別にみると、学童保育の利用期限を小学校低学年とする人は、専業主婦が 33.7%であるのに対し、共稼ぎ世帯は 43.6%で、その差は 9.9%でした。

**Q6.あなたが学童保育を利用する前に、どのようなことを期待しましたか。(回答はそれぞれ一つずつ)**



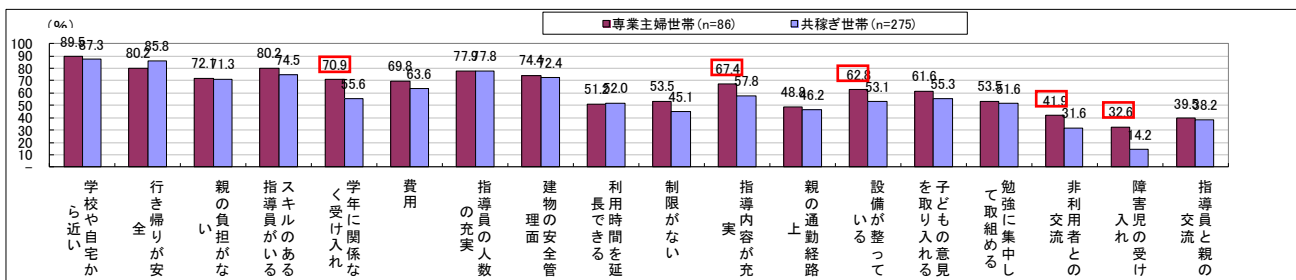
- ✓ 学童保育の利用に関する選択肢について、それぞれどの程度期待したかをたずねると、期待したこと(「とても期待した」と「やや期待した」の合計)では、「学校や自宅から近い」(87.6%)、「行き帰りが安全」(84.4%)が最上位に挙げられています。次いで「指導員の人数の充実」(77.5%)、「スキルのある指導員がいる」(75.0%)という指導員に対する期待が挙げられています。

## 【地域別】



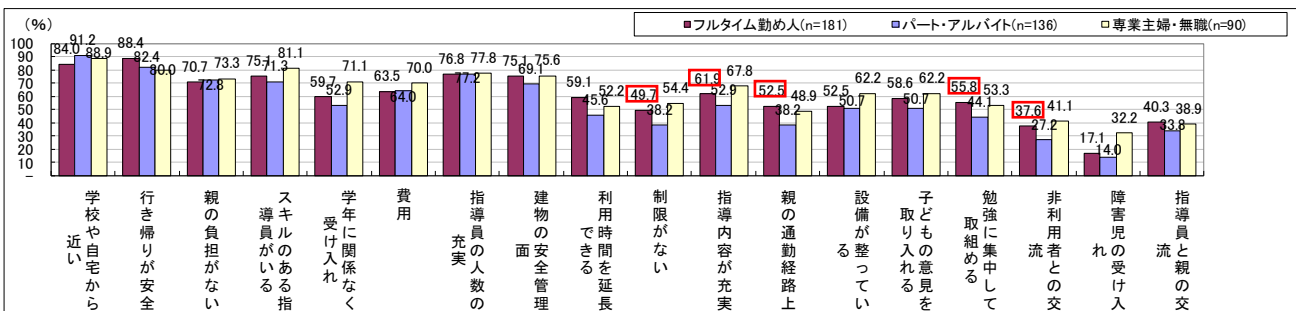
- ✓ 地域別では、中京・近畿圏の方が首都圏に比べて、「親の負担がない」で 19.5%、「(親の年収などの)制限がない」で 20.0%上回り、親に関わる事柄の期待度が高いことがうかがえます。

## 【家計形態別】



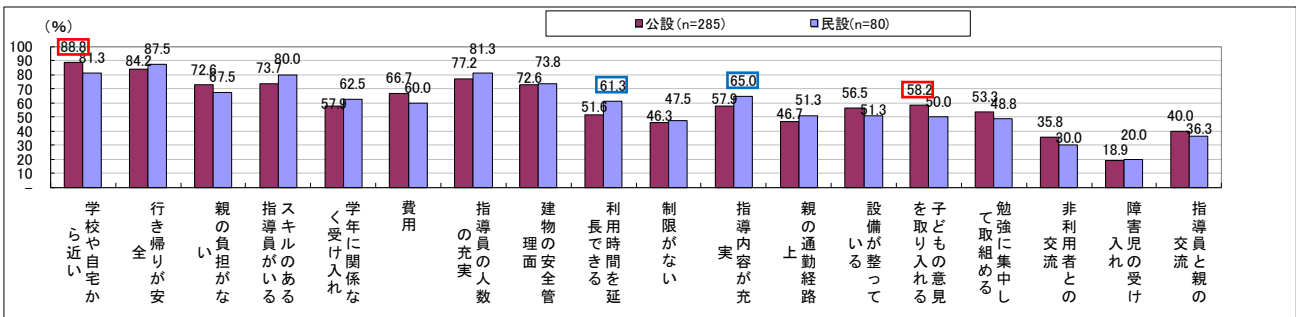
- ✓ 家計形態別にみると、専業主婦世帯は、共稼ぎ世帯に比べて「学年に関係なく受け入れる」で 15.3%、「指導内容が充実」で 9.6%、「設備が整っている」で 9.7%、「(学童保育の)非利用者との交流がある」で 10.3%、「障害児の受け入れ」で 28.4%上回りました。

## 【母親の就労形態別】



- ✓ 母親の就労形態別では、フルタイム勤め人はパート・アルバイトの人と比べ、「(親の属性による入所)制限がない」で 11.5%、「指導内容が充実」で 9%、「親の通勤経路上にある」で 14.3%、「勉強に集中して取り組める」で 5.1%、「(学童保育の)非利用者との交流がある」で 10.4%上回りました。

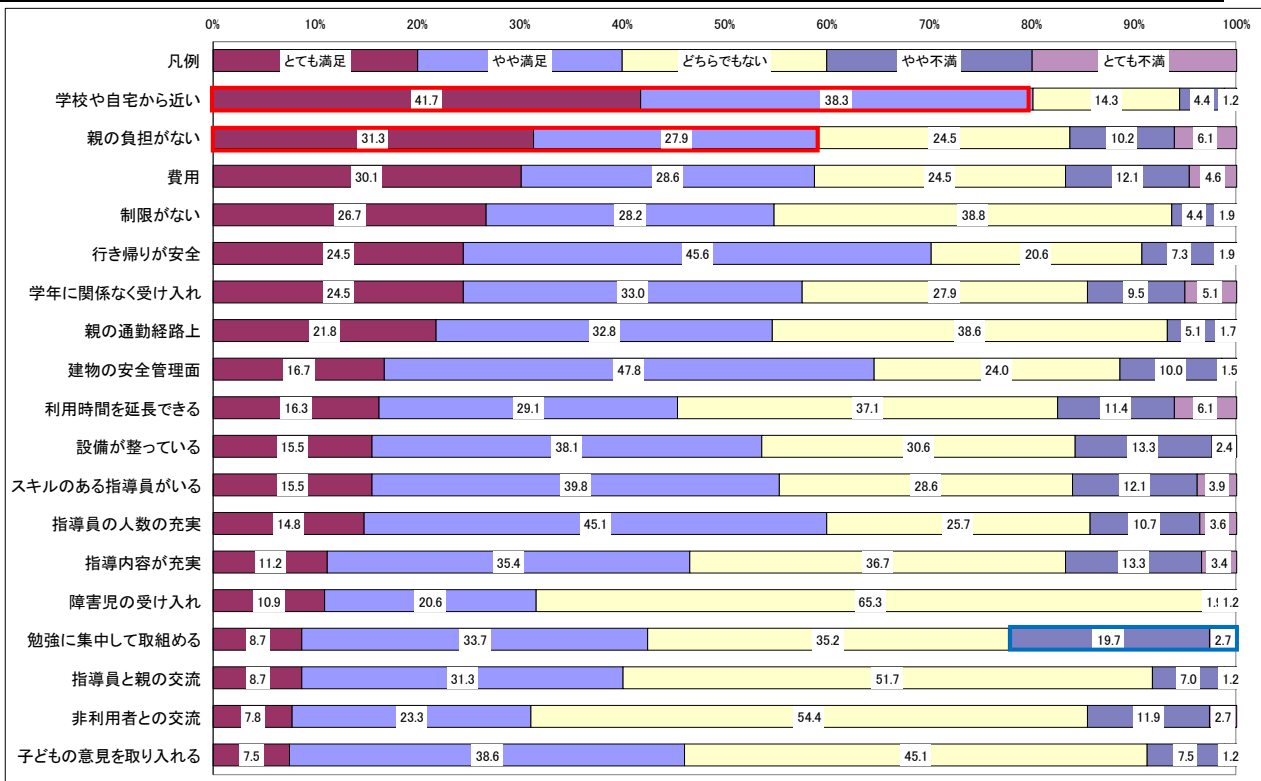
## 【設立主体別】



- ✓ 設立主体別にみると、公設は「学校や自宅から近い」で 6.9%、「子どもの意見を取り入れる」で 8.2%上回り、反対に民設は「利用時間を延長できる」で 9.7%、「指導内容が充実」で 7.1%公設を上回りました。

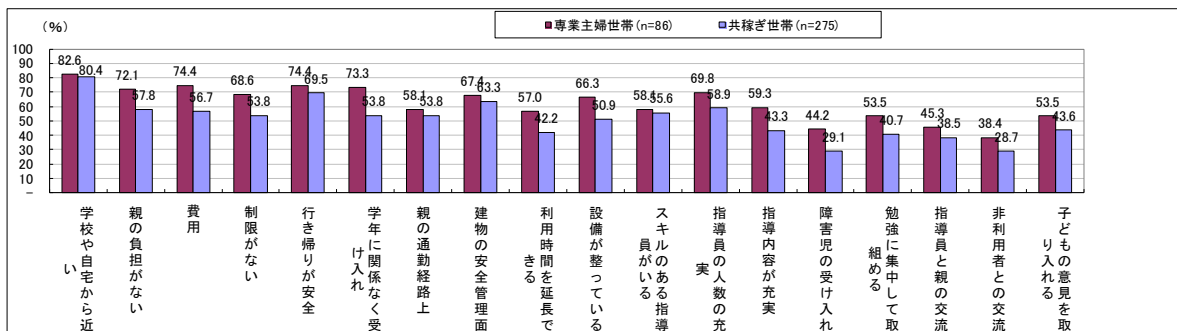
## 【学童保育の評価】

### Q7. あなたからみて、現在利用している学童保育にどの程度満足していますか。(回答はそれぞれ一つずつ)



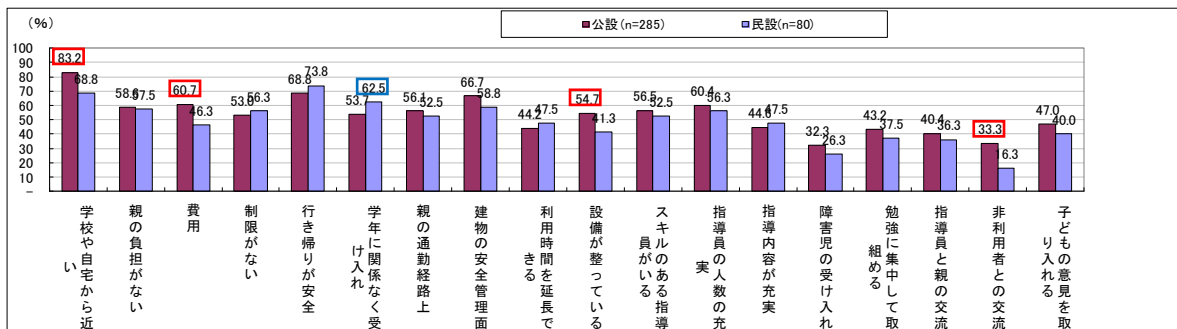
- 現在利用している学童保育について、満足度の高い項目(「とても満足」と「やや満足」の合計)をみると、前問で期待度が高かった「学校や家から近い」(80.0%)、「行き帰りが安全」(70.1%)といった項目は、満足度も高くなっています。一方、「やや不満」、「とても不満」が最も多かったのは「勉強に集中して取り組める」(22.4%)でした。

### 【家計形態別】



- 家計形態別にみると、総じて共稼ぎ世帯の方が専業主婦世帯より満足度が低い結果となっています。

### 【設立主体別】

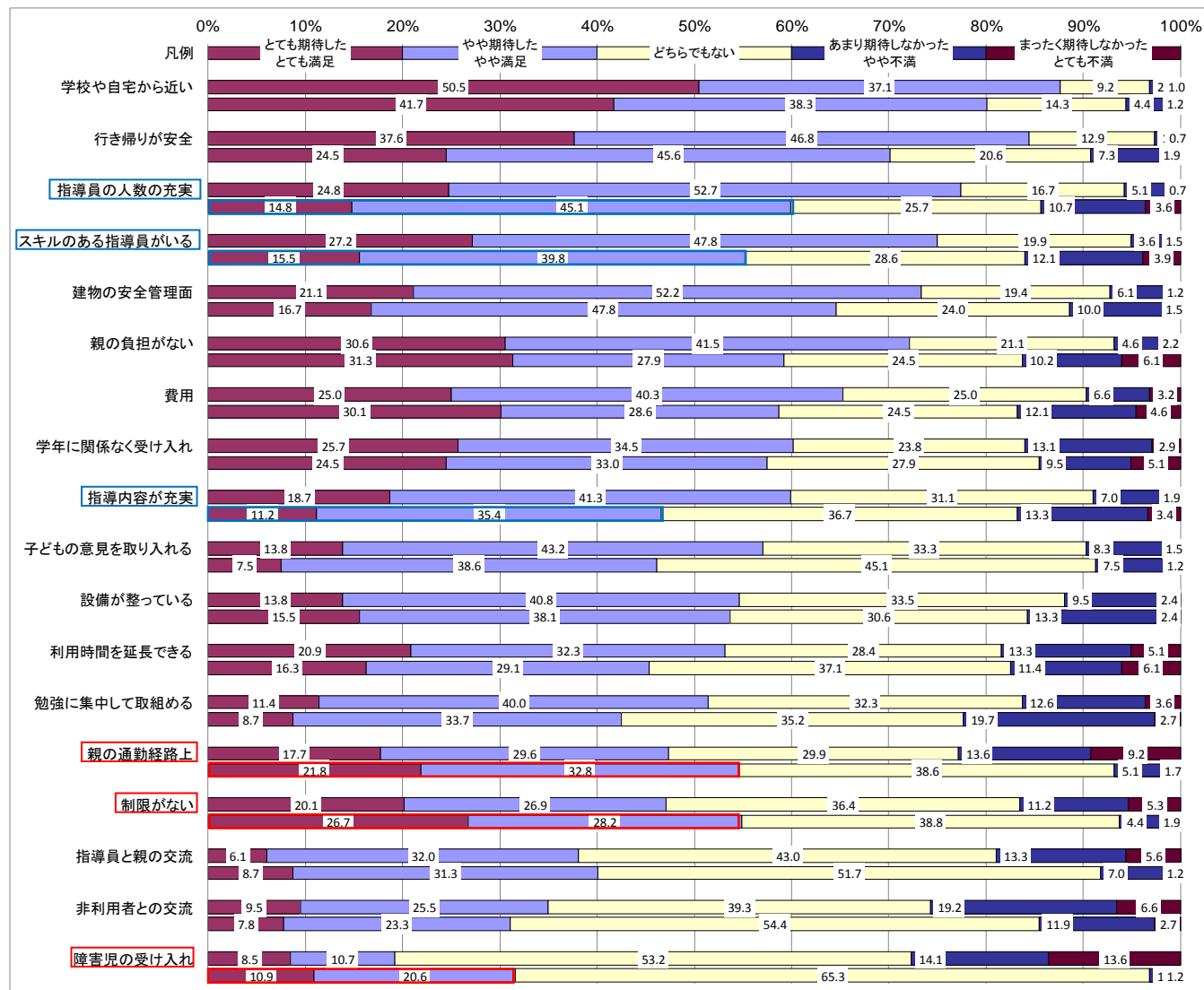


- 設立主体別では、公設の方が民設と比べて「学校や自宅から近い」で 14.4%、「費用」で 14.4%、「設備が整っている」で 13.4%、「(学童保育の)非利用者との交流」で 17.0%上回っています。一方、民設は「学年に関係なく受け入れる」で 8.8%、公設を上回っています。



## Q8.Q6(学童保育を利用する前に期待したこと)と Q8(現在利用中の学童保育の満足度)の回答比較

(※各項目の上段が Q6 の期待度、下段が Q8 の満足度)

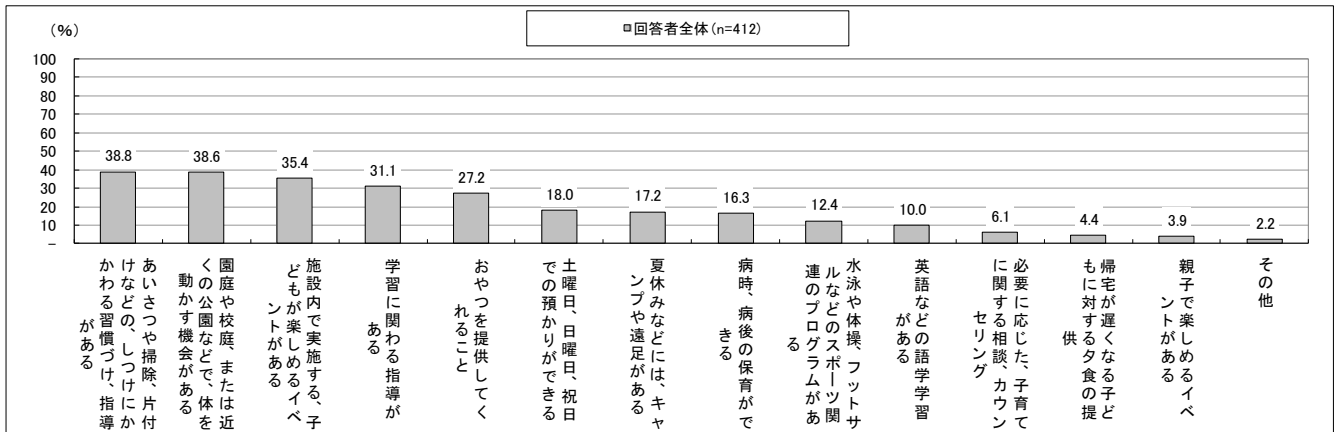


- ✓ Q6 の期待度(「とても期待した」、「やや期待した」の合計)と Q8 の現在利用中の学童保育の満足度(「とても満足」、「やや満足」の合計)を比較すると、全体的に満足度が期待度を下回っています。
- ✓ Q6 で期待度が高かった「学校や家から近い」、「行き帰りが安全」といった項目については、Q8 の満足度も高い傾向が伺えます。
- ✓ Q8 の満足度が Q6 の期待度を大きく上回ったのは、「親の通勤系路上」(+7.3%)、「(親の属性による入所)制限がない」(+7.7%)、「障害児の受け入れ」(+12.4%)といった項目が挙げられます。
- ✓ 一方、Q8 の満足度が Q6 の期待度を大きく下回ったのは、「スキルのある指導員がいる」(-19.7%)、指導員の人数の充実(-17.7%)、「指導内容が充実」(-13.4%)などでした。

## 【今後の学童保育に向けて】

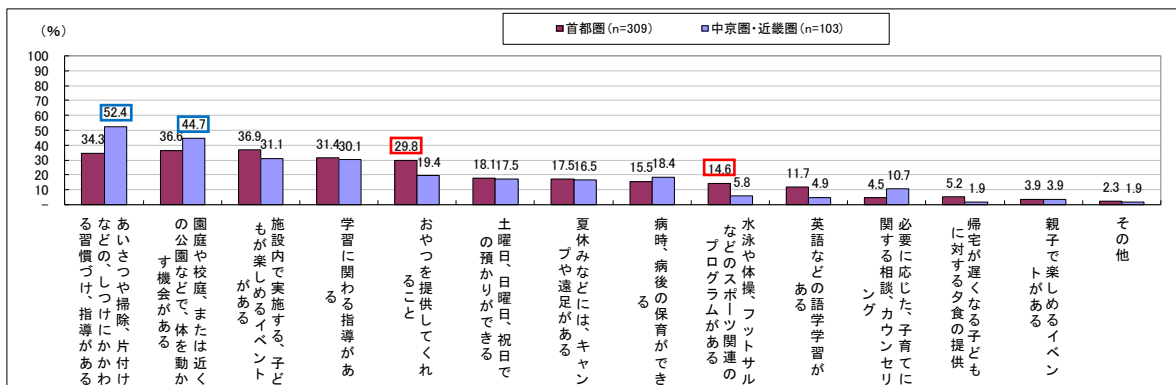
Q9.学童保育にはさまざまなサービス・プログラムがありますが、あなたが学童保育に期待する機能は何ですか。

(回答は3つまで)



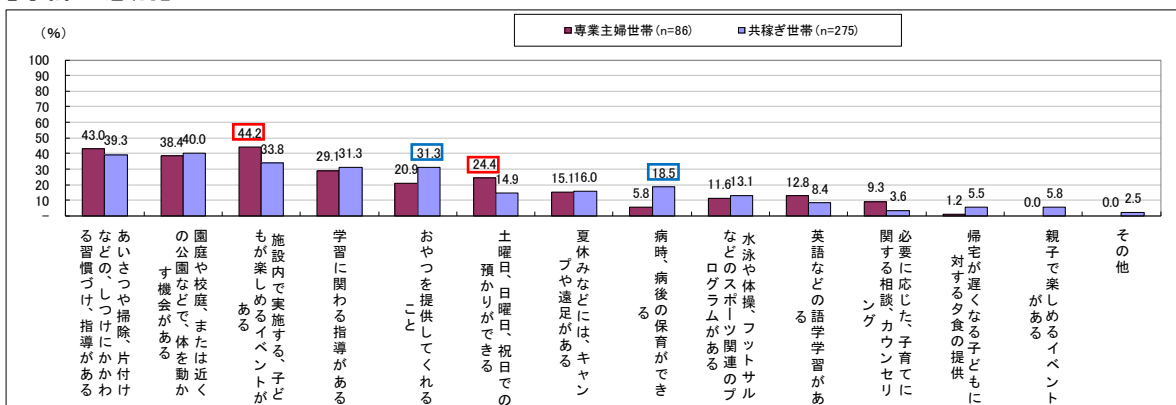
- 学童保育のサービス・プログラムにおいて、学童保育利用者が特に期待しているのは、「あいさつや掃除、片付けなどの、しつけにかかわる習慣づけ、指導がある」(38.8%)、「園庭や校庭、または近くの公園などで、体を動かす機会がある」(38.6%)、「施設内で実施する、子どもが楽しめるイベントがある」(35.4%)でした。次いで「学習にかかわる指導がある」(31.1%)、「おやつを提供してくれること」(27.2%)が続きます。

### 【地域別】



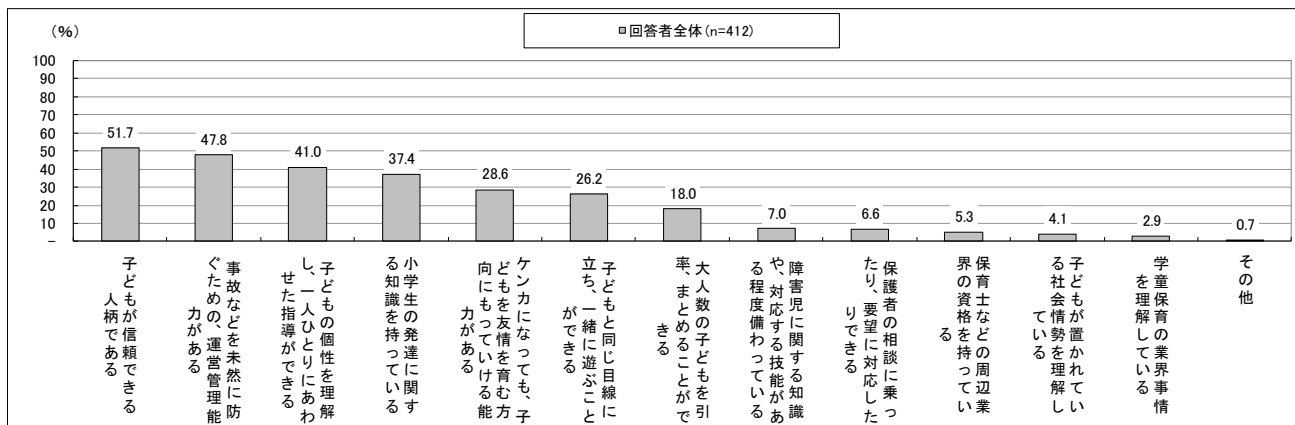
- 地域別にみると、中京・近畿圏は首都圏に比べて「しつけにかかわる習慣づけ」が18.1%、「体を動かす機会」が8.1%上回っています。反対に、首都圏の人は中京・近畿圏の人より「施設内で実施する、子どもが楽しめるイベントがあること」が5.8%、「おやつの提供」が10.4%、「スポーツ関連のプログラム」が8.8%上回りました。

### 【家計形態別】



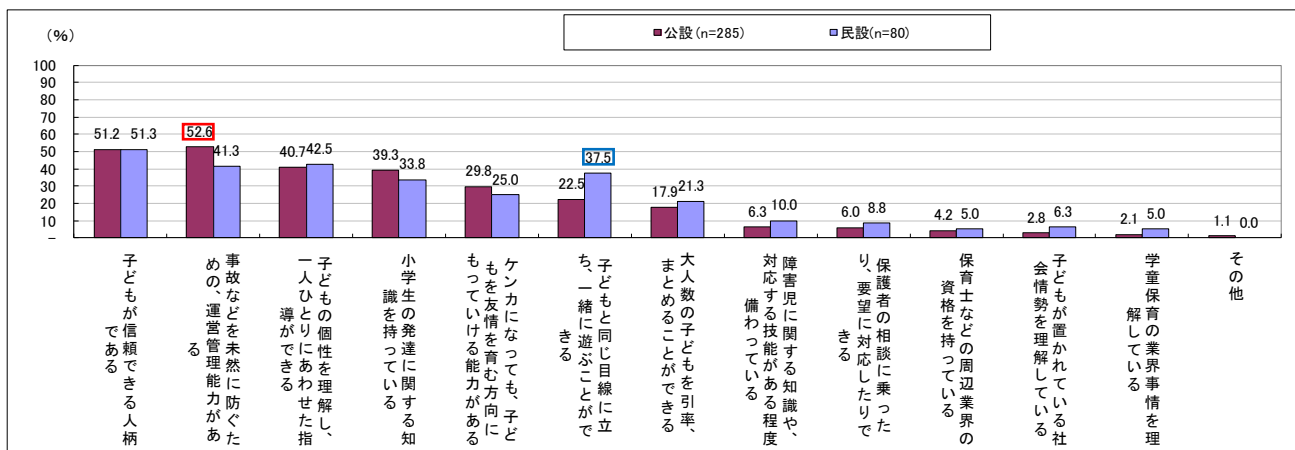
- 家計形態別では、専業主婦世帯は「施設内で実施する、子どもが楽しめるイベントがあること」(44.2%)や「土曜日や日曜日、祝日の預かり」(24.4%)を期待しています。一方、共稼ぎ世帯は「おやつの提供」(31.3%)、「病時、病後の保育」(18.5%)を期待しているようです。

**Q10.あなたが、学童保育の指導員に対して期待することは何ですか。(回答は3つまで)**



- ✓ 学童保育の指導員に対する期待をみると、「子どもが信頼できる人柄」(51.7%)、「事故などを未然に防ぐための運営管理能力がある」(47.8%)を期待しています。次いで「子どもの個性を理解し、一人ひとりにあわせた指導ができる」(41.0%)、「小学生の発達に関する知識を持っている」(37.4%)が挙げられています。

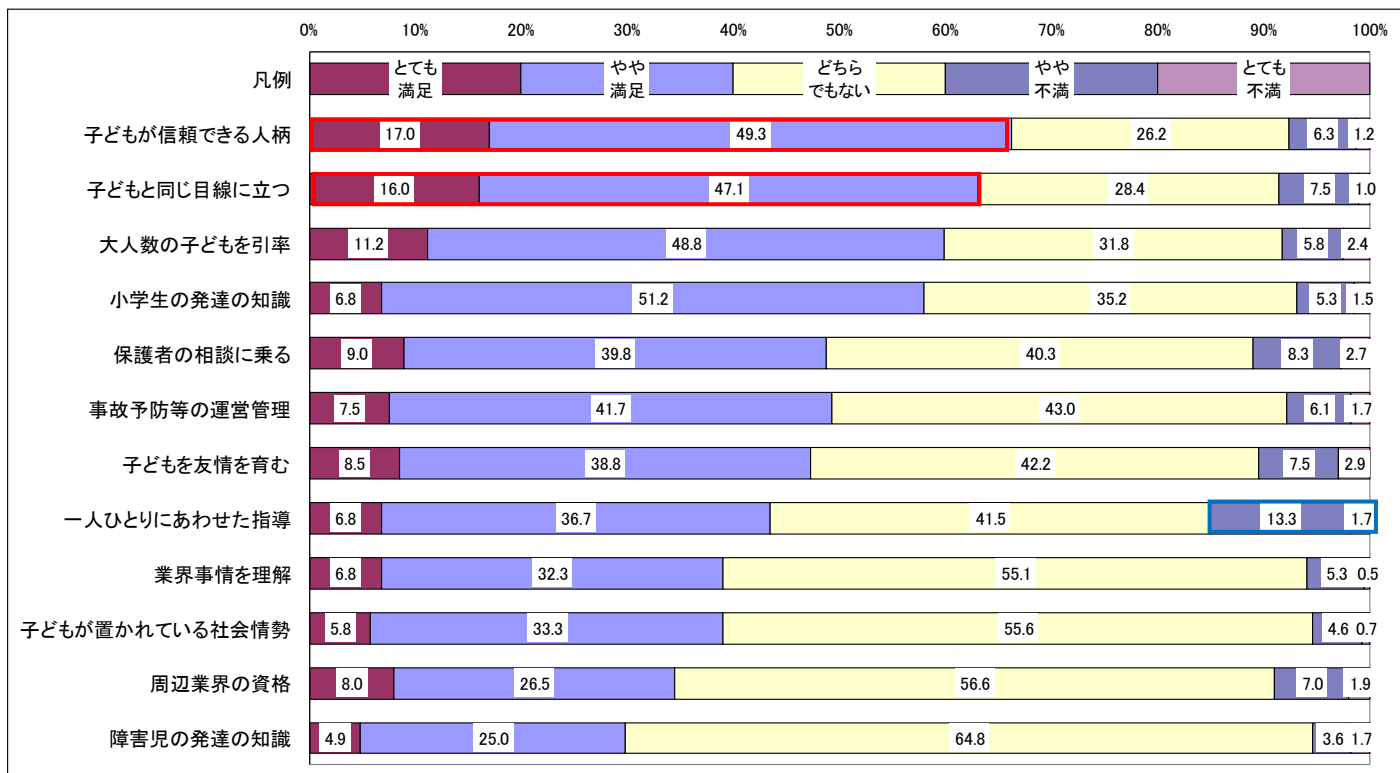
**【設立主体別】**



- ✓ 設立主体別に比較すると、公設の利用者は民設より「事故などを未然に防ぐための運営管理能力」が 11.3%高くなっています。一方、民設の利用者は公設より「子どもと同じ目線に立ち、一緒に遊ぶことができる」が 15.0%上回っています。

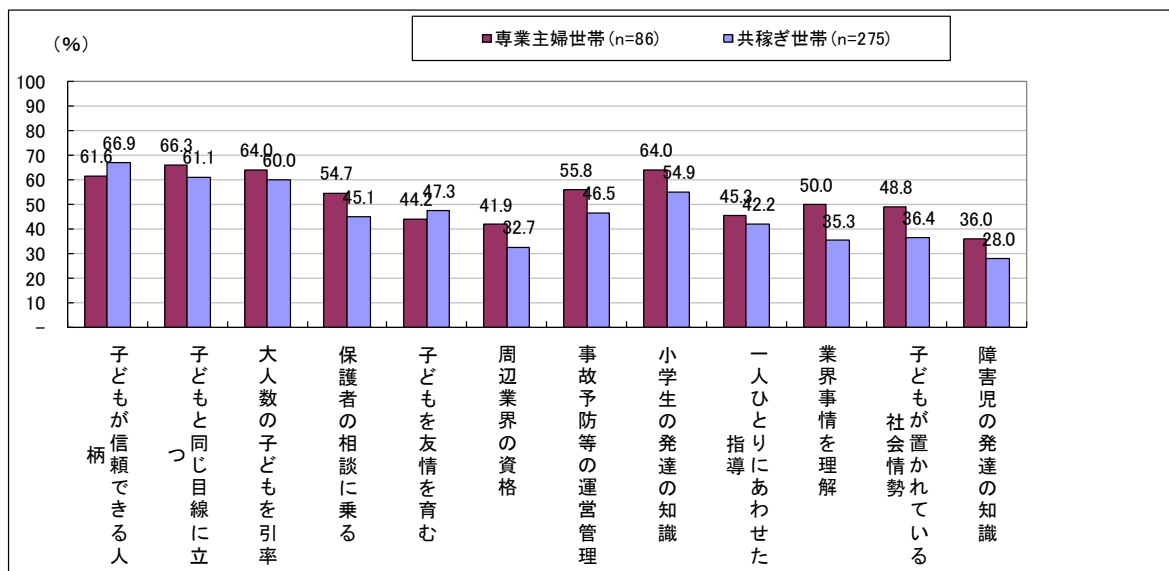
**Q11.現在お子様に通っている学童保育の指導員について、どれくらい満足していますか。**

**(回答はそれぞれ一つずつ)**



- ✓ 学童保育の指導員に対する満足度(「とても満足」と「やや満足」の合計)をみると、「子どもが信頼できる人柄」(66.3%)、「子どもと同じ目線に立つ」(63.1%)の項目で満足度が高くなっています。反対に、不満(「やや不満」と「とても不満」の合計)が最も高かったのは、「一人ひとりにあわせた指導ができる」(15.0%)でした。

**【家計形態別】**



- ✓ 家計形態別では、一部項目を除き、総じて共稼ぎ世帯の満足度が専業主婦世帯よりも低いことがうかがえます。